



# 日本統計学会 会報 2020.7.30 No. 184

発行—— 一般社団法人 日本統計学会  
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6 能楽書林ビル5F  
公益財団法人 統計情報研究開発センター内 日本統計学会事務局  
Tel & Fax : 03-3234-7738  
編集責任—山下 智志 (理事長) / 伊藤 伸介 (庶務理事)  
小池 祐太 (広報理事) / 明石 郁哉 (広報委員)  
鎌谷 研吾 (広報委員)  
振替口座—00110-3-743886  
銀行口座—みずほ銀行九段支店普通 1466879番

JAPAN STATISTICAL SOCIETY NEWS

## 目次

- |   |   |
|---|---|
| 1. 巻頭随筆：表現型進化と分子進化… 岸野洋久… 1                       | 9. 日本統計学会春季集会での発表に関する会員への旅費の補助制度の廃止について<br>…………… 川崎茂・山下智志… 14 |
| 2. 第25回日本統計学会賞について… 川崎 茂… 3                       | 10. 第3回「赤池メモリアルレクチャー賞」<br>受賞者および記念講演が決定… 14                   |
| 3. 第16回日本統計学会統計活動賞について<br>…………… 川崎 茂… 4           | 11. 理事会・委員会報告(2020年5月9日開催)… 15                                |
| 4. 第16回日本統計学会統計教育賞について<br>…………… 川崎 茂… 5           | 12. 社員総会報告… 16  |
| 5. 第14回日本統計学会研究業績賞について<br>…………… 川崎 茂… 6           | 13. 博士論文・修士論文の紹介… 21  |
| 6. 第34回日本統計学会小川研究奨励賞について<br>…………… 川崎 茂… 7         | 14. 新刊紹介… 22  |
| 7. 第2回細谷賞授賞について… 照井伸彦… 8                          | 15. JSS Research Series in Statistics からの新刊情報… 22             |
| 8. 2020年度統計関連学会連合大会のお知らせ(第三報)<br>藤野友和・山本義郎・富田誠… 9 | 16. 受賞紹介… 22  |
|   | 17. 学会事務局から… 23   |
|   | 18. 投稿のお願い… 23  |

## 1. 表現型進化と分子進化

岸野 洋久 (東京大学農学部)

慣性の法則は、外力が働かない限り物質の速度は維持されることを説き、速度の変化を外力として定義します。物理現象の基準線を与えるこの法則の適用範囲は、一つの物質の運動にとどまらず、さまざまな自然現象や社会現象、心理現象にまで及んでいるようです。そして私たちはしばしば、意識するかしないかは別にして、社会と環境の来し方から慣性の法則に基づき行く末を予測し、行動しているようです。

日常生活の時間のスケールを少し伸ばして、私たちはどのように進化してきたか、想像してみましょう。全世界に生活するヒトの祖先を手繰っていくと、10万年から20万年程度で共通祖先に行き

着きます。これに対して、チンパンジーはヒトと最も近いのですが、ヒトと別れたのは5百万年から1千万年ほど前です。サルやキリン、カバ、ゾウ、トラなどの胎盤を持つ哺乳類は1億年余り前に共通祖先に行き着きます。気の遠くなるほど昔の話ですが、大変動する環境にわたちがどのように適応してきたか、そして何をそぎ落としてきたか、探ってみたいと思います。

哺乳類の系統樹の末端の節には、種の生活史の観測値がありますが、この観測値と整合性を保ちつつ、内部節の状態を推定します。自然な推論の枠組みとして、最小進化の規準が広く受け入れられています。多くの場合、進化のプロセスをマル

コフ過程でモデリングし、最尤推定あるいはベイズ推定しますが、これらの推定法も、変化のパターンにも気を配りつつ最小進化の規準で推定したものと捉えることができます。これは、系統的慣性 (phylogenetic inertia) を推論の拠り所としていることとなります。

ところが、こうして復元された祖先形質は、これまで積み重ねてこられた化石の記録と矛盾することが少なからずあります。中生代から新生代に移る K-Pg 境界 (Cretaceous-Paleogene boundary, およそ6,500万年前) に、それまで地球を我が物顔にしていた恐竜が、突然パタッと姿を消しました。理由はいまも不明な部分が多いのですが、この時期に巨大な隕石が落下したことを示す証拠が見つかっています。それ以前は、恐らく恐竜の捕食圧を避けて、今のネズミほどに小型で食虫の哺乳類でしたが、恐竜が絶滅すると、次々に肉食、草食の大型哺乳類が現れ、大きく空いたニッチを埋めていきます。化石記録が確かな証拠を示すにも関わらず、原生種の食性から祖先の食性を最新の手法によりベイズ推定すると、K-Pg 境界以前も多くが食虫ではなかったと結論します。現在では多くの系統が肉食・草食となったため、最小進化の規準では K-Pg 境界以前も食虫でないものが多くを占める、と推定してしまうのです。また、表現型は、系統的に離れていても、似たような環境にさらされると同じようなタイプになる、という収斂進化をすることがしばしばあります。

いま、数多くの生物種でゲノムデータが公開されています。ゲノム情報は高品質ですので、これを予測変数として利用できたら素晴らしいですね。ゲノムは生物の遺伝情報を書き込んだ設計図です。この設計図に基づき、エネルギーの代謝、成長、環境への応答、繁殖などの生命活動を担うタンパク質が、適切な量だけ生産されます。ゲノムを種間で比較して見えてくる分子進化は、集団を塗り替えた突然変異で形作られます。実は、そのうち有利な突然変異の割合は非常に少なく、実質的にゲノムの種間の違いは中立な突然変異を表現していることが分かっています。不利な突然変異は集

団から排除されますので、分子進化速度は、突然変異率と中立な変異の割合の積で表現されます。表現型に比べ収斂進化はまれなので、分子進化速度は冷徹に、表現型進化の予測変数として私たちに何かを語りかけてくれるかもしれません。

突然変異率は世代の長さや変異源への暴露率に影響されます。一方、中立な変異の割合は機能的な制約の強さなどに左右されます。子孫を残す上でその遺伝子が欠かせないときは、遺伝子はそう簡単には変わりません。反対に重要性が低下すると、ランダムに生じた突然変異が集団に定着する可能性は高まります。したがって、突然変異率はゲノム全体にわたり一様に変動するのに対し、中立な変異の割合は遺伝子ごとに個別に変動します。そこで、数多くの遺伝子について分子系統樹を比較分析すると、分子進化速度の遺伝子×枝交相互作用として、遺伝子への機能的制約の強さが系統間で変化するパターンを抽出できるでしょう。種々の遺伝子への機能的な制約のプロファイルは、いわば生物の体の中の生理状態を投影したものです。祖先形質の予測変数として利用できそうです。実際に食虫性を分析してみたところ、K-Pg 境界以前では多くは食虫であったことを示唆する、化石情報と整合性のある結果が得られたのです。

いろいろな生活史の形質を総合的に分析してみると、胎盤哺乳動物の共通祖先がどのような生活をしてきたか、その姿が浮かび上がってきました。彼らは群れを作らず、繁殖に季節性があり、昆虫を捕食し、夜行性であったようです。そして群れを作るよう進化した系統では、脳および神経系に関与する遺伝子への機能的な制約が強まったようです。通年繁殖するよう進化した系統では、減数分裂に関係する遺伝子への機能的な制約が強まり、性ホルモンの生合成に関係する遺伝子への機能的な制約が弱まりました。また、夜行性から昼行性になると、聴覚や嗅覚、触覚に関わる遺伝子への機能的な制約が弱まりました。もちろん推論には不確実性が伴いますが、うなずける結果ではあります。

ところで、機能的な制約が弱まり役職を解かれ

た彼らは、ラッキーな突然変異に恵まれる可能性はほとんどないにもかかわらず、いまでも存在し、重要な役割を担っています。一体どのようにして今に至るまで遺伝子ネットワークの中に自身を保

ち続けたのでしょうか。彼らの生きざまと彼らを囲む組織は、彼らを存続させる上で何か大切なものを内に秘めているのかもしれませんが。

## 2. 第25回日本統計学会賞について

川崎 茂（日本統計学会会長）

2020年度の日本統計学会賞は、以下の方に授与することが決まりました。

**受賞者氏名：**岩崎 学氏

**略歴：**1975年 東京理科大学理学部卒業、1977年 東京理科大学大学院理学研究科数学専攻修士課程修了、1977年 茨城大学工学部情報工学科助手、1984年 防衛大学校数学物理学教室講師、1987年 同助教授、1988年 理学博士取得（東京理科大学）、1993年 成蹊大学工学部経営工学科助教授、1997年 同教授、2001年 成蹊大学理工学部情報科学科教授、2017年 横浜市立大学国際総合科学群教授（併任）、2018年 横浜市立大学データサイエンス学部教授・学部長、現在に至る。

**授賞理由：**岩崎学氏は、統計学・データサイエンスに関する研究、教育、社会的活動において幅広く活躍し、数多くの優れた業績を挙げている。研究に関しては、多変量解析、射影追跡などの計算機多用型の統計解析法、mid-P 値やゼロ過剰な確率モデルを含むカウントデータの統計解析法、欠測などの不完全データの統計解析法、統計的因果推論など、実際の統計解析に密接に関わる多くの統計解析手法の方法論を総合的に研究し、かつ、実践してきた。それらの研究成果は、論文や著作物として刊行されたほか、学会等の講演あるいは各種セミナーを通じて公開された。また、岩崎氏は、日本統計学会の会長、理事長を務めたほか、現在統計関連学会理事長を務めるなど、様々な統

計関連学会の役員に就任し、長きにわたり統計学の発展・普及に寄与してきた。さらに、厚生労働省等における新薬の承認申請の審査に20年以上にわたり携わるなど、多くの社会貢献も特筆される。最近では、横浜市立大学のデータサイエンス学部の創設に携わり、初代学部長に就任し、統計学・データサイエンスに関する研究・教育のさらなる発展に尽力している。このような岩崎氏の統計学・データサイエンスの発展に対する多面的かつ多大な貢献は、日本統計学会賞にふさわしいものである。

**主要業績：**

- [1] 岩崎学 (2019) 『事例で学ぶ！新しいデータサイエンスの教科書』 翔泳社
- [2] 岩崎学 (2015) 『統計的因果推論』 朝倉書店
- [3] 岩崎学 (2002) 『不完全データの統計解析』 エコノミスト社
- [4] Kurosaki, M., Iwasaki, M. et al, (2012) Data mining model using simple and readily available factors could identify patients at high risk for hepatocellular carcinoma in chronic hepatitis C. *Journal of Hepatology*, **56**, 602-608. (IF = 12.486)
- [5] Iwasaki, M. (1991) Construction of M-estimators by robustifying orthogonal polynomials associated with the density function. *Journal of the Japan Statistical Society*, **21**, 155-171.

### 3. 第16回日本統計学会統計活動賞について

川崎 茂（日本統計学会会長）

2020年度の日本統計学会統計活動賞は、以下の団体に授与することが決まりました。

**[1] 受賞団体名：**公的統計マイクロデータ研究コンソーシアム

**授賞理由：**公的統計マイクロデータ研究コンソーシアムは、公的統計のマイクロデータの研究への利用を推進することを目的として、2016年に統計データの提供に携わる者、統計データの分析・研究に携わる者が中心となって、学官産の共同により設立された団体である。公的統計のマイクロデータは、統計学を始め、さまざまな学問分野における重要な研究基盤と位置付けられるが、利用手続きの煩雑さや、利用機会の少なさに伴う研究者層の未成熟などのため、従前は十分に利活用が進んでいなかった。このため、国では2015年頃から利活用の環境整備を進め、2018年の統計法改正（2019年施行）の後、セキュリティを確保した上でマイクロデータを利用することのできる「オンサイト利用」の制度を創設した。コンソーシアムは、このような動きに先行して、マイクロデータの利用の観点を中心に、データの整備方法、研究利用プラットフォーム形成等に向けた研究を進めるとともに、統計研究者のためのシンポジウムを開催し、学官産の間で緊密な情報共有及び意見交換を行ってきた。このような活動を通じて、現在ではオンサイト利用を通じたマイクロデータによる統計研究は着実に増加している。コンソーシアムのこのような活動は、統計学及び統計を支える基盤の充実、高度化を通じた研究・教育環境の整備に多大な貢献をするものとして高く評価できることから、日本統計学会統計活動賞にふさわしいものである。

**[2] 受賞団体名：**統計データ利活用センター（総務省統計局・独立行政法人統計センター）

**授賞理由：**統計データ利活用センター（以下「利活用センター」）は、総務省統計局及び独立行政法人統計センターが2018年4月に開設した公的統計のマイクロデータ利活用の推進拠点である。公的統計のマイクロデータは、統計学を始め、さまざまな学問分野における重要な研究基盤と位置付けられるが、利用手続きの煩雑さや、利用機会の少なさに伴う研究者層の未成熟などのため、十分に利活用が進んでいなかった。このため、国では2016年から利活用の環境整備を進めるとともに、統計法の改正を行い、セキュリティを確保した上でマイクロデータを利用することのできる「オンサイト利用」の制度を2019年から施行した。この一連の動きに先立ち、総務省統計局及び独立行政法人統計センターは、大学・研究機関と連携して公的統計マイクロデータの研究目的での利用を進めてきた。利活用センターは、そのような実績を踏まえて設立されたものであり、現在までに全国の9大学・研究機関にオンサイト利用施設が整備され、利活用センターとセキュアなネットワークで結ばれている。これらオンサイト利用施設は、利活用センターと連携して、公的統計マイクロデータの研究拠点となっている。このほか、利活用センターでは、各府省の公的統計マイクロデータに関する情報を一元的に集約した政府ポータルサイトを立ち上げるなど、マイクロデータを活用した研究利用の促進に努めている。

利活用センターのこのような活動は、統計学及び統計を支える基盤の充実・高度化を通じた研究・教育環境の整備において多大な貢献をするものとして高く評価できることから、日本統計学会統計活動賞にふさわしいものである。

## 4. 第16回日本統計学会統計教育賞について

川崎 茂（日本統計学会会長）

2020年度の日本統計学会統計教育賞は、以下のよう  
に授与することが決まりました。

[1] 受賞者氏名：渡部 靖司氏

略歴：2002年 広島大学理学部数学科卒業，2002年 愛媛県立野村高等学校教諭，2005年愛媛県立松山中央高等学校教諭，2011年 愛媛県立上浮穴高等学校教諭，2015年 愛媛県立松山南高等学校教諭。

授賞理由：渡部靖司氏は，高等学校数学科における統計教育の方法論的研究・授業実践の分野で活  
発な活動を行い，顕著な実績を挙げてきた。特に，スーパーサイエンスハイスクール（SSH）の指定を受けた高等学校普通科課題研究において，生徒に主体的な科学的探究活動を指導し，その実践内容について「統計教育の方法論ワークショップ」等において研究発表を行うなど，統計的問題解決の授業の改善に取り組むとともに，授業事例の普及に努めている。本年2月の同ワークショップにおいても授業実践成果の研究発表を行い，優秀実践事例として認められた。また，生徒の統計的課題研究の指導に意欲的に取り組み，指導を受けた生徒たちが2018年統計データ分析コンペティション日本統計協会賞等を受賞するなど，指導力の高さも高い評価に値する。現在，渡部氏は，勤務校のSSH推進課次長として普通科課題研究「データサイエンスI」のカリキュラム開発や産学連携プロジェクトに尽力している。このような渡部靖司氏の優れた実績は，統計教育の発展に顕著に貢献しており，高く評価されるものであることから，日本統計学会統計教育賞にふさわしいものである。

主要業績：

[1] 渡部靖司（2020）「統計課題研究2年目の取組～様々なコンテストへの参加と産学連携に向けて～」第17回統計教育の補法論ワークシ

ョップ，統計数理研究所共同研究レポート431 統計教育実践研究第12集，pp.112-115.

[2] 渡部靖司（2019）「統計課題研究1年目の取組～様々なコンテストへの挑戦～」第16回統計教育の方法論ワークショップ，『統計』教育実践研究特別号，pp.37-40

[3] 渡部靖司（2016）「平成28年度愛媛大学入試問題（数学）の研究」，愛媛県高等学校教育研究会数学部会『数学部会誌』，第57巻，pp.50-56

[4] 渡部靖司（2015）「鳩の巣原理を利用した課題学習の研究」，愛媛県高等学校教育研究会数学部会『数学部会誌』，第56巻，pp.86-88

[5] 渡部靖司（2014）「ランダムウォークの研究」，愛媛県高等学校教育研究会数学部会『数学部会雑誌』，第55巻，pp.90-93

[2] 受賞団体名：青森県企画政策部統計分析課

授賞理由：青森県統計分析課は，地方公共団体における統計行政を担う機関として，他の都道府県に先駆け，学校教員を対象とする統計研修会を行い，統計指導者の育成を通じて統計の普及啓発を図る取組を進めてきた。同課では，平成21年度の学習指導要領の改訂において統計教育が拡充されたことに対応して，平成25年度から，小学校・中学校・高等学校の統計指導者を対象とする「青森県統計教育セミナー」を毎年開催してきた。教育現場では，統計教育の指導方法に不安を抱く教員が多かったことから，同課では，県中学校教育研究会数学部会との共催により，日本統計学会統計教育委員会や文部科学省の協力を得て，特別講演会や，先進的取組を行っている中学校教諭の事例研究発表など実践的な研修会を実施している。このような活動を通じて，統計指導力の高い教員を育成し，統計的問題解決能力を持った子供の育成

につながる教育支援を継続的に行うことにより、統計教育の向上に大きく貢献している。青森県統計分析課のこのような活動は、統計教育の発達・

普及及び統計に関する普及・啓発に多大なる貢献するものとして高く評価されることから、日本統計学会統計教育賞にふさわしいものである。

## 5. 第14回日本統計学会研究業績賞について

川崎 茂（日本統計学会会長）

2020年度の日本統計学会研究業績賞は、以下の方に授与することが決まりました。

**受賞者氏名：**鎌谷 研吾氏

**略歴：**2003年 東京大学理学部卒業，2005年 東京大学大学院数理科学研究科数理科学専攻修士課程修了，2008年 東京大学大学院数理科学研究科数理科学専攻博士課程修了，2008年 日本学術振興会特別研究員 PD，2009年 東京大学大学院数理科学研究科特任助教，2011年 大阪大学大学院基礎工学研究科助教，2014年 同講師，2019年 4月 同准教授，現在に至る。

**授賞理由：**鎌谷研吾氏は、バイズ統計理論及び関連計算統計の分野において多数の顕著な業績を挙げており、その貢献は、MCMC 法や逐次モンテカルロ法の実用的な手法の提案及び実装、並びに関連する基礎理論の発展など多岐にわたっている。特に、裾の重い確率分布に対する MCMC 法の提案と、そのエルゴード性解析並びに高次元漸近論の研究は、当該分野の理論及び実データ解析に新たな発展の方向性を示す先駆的なものであり、その成果は、JSS Research Series in Statistics (Springer) として近刊の予定である。鎌谷氏の一連の研究成果は、計算統計を始めとする統計学における広範な分野の底上げに資するものであり、その有用性及び重要性は国内外で広く認識されている。鎌谷氏は世界第一線の研究者と共同研究を行い、その成果も注目を集めている。さらに、鎌谷氏の提案

する手法は、数値実験及び実データ解析においても有用性が確認されており、鎌谷氏が、理論的な貢献はもとより、実用化まで並行して研究し実現していることは特筆に値する。計算機集約的な統計手法への需要が増している今日において、鎌谷氏のこのような卓越した業績は統計学の発展に多大な貢献をするものであることから、日本統計学会統計業績賞にふさわしい。

**主要業績：**

- [1] Jasra A., Kamatani, K., Law, K.J.H. and Zhou, Y. (2017). Multilevel particle filters. *SIAM Journal on Numerical Analysis* **55**(6), 3068-3096
- [2] Kamatani, K. (2017). Ergodicity of Markov Chain Monte Carlo with reversible proposal. *Journal of Applied Probability* **54**, 638-654.
- [3] Kamatani, K. (2018) Efficient strategy for the Markov Chain Monte Carlo in high-dimension with heavy tailed target probability distribution. *Bernoulli*, **24**(4B), 3711-3750
- [4] Bishop, A.N., Del Moral, P., Kamatani, K. and Remillard, B. (2019). On one-dimensional Riccati diffusions. *Annals of Applied Probability* **29**(2), 1127-1187
- [5] Kamatani, K. (2020). Random walk Metropolis algorithm in high dimension with non-Gaussian target distributions. *Stochastic Processes and their Applications* **130**(1), 297-327

## 6. 第34回日本統計学会小川研究奨励賞について

川崎 茂 (日本統計学会会長)

2020年度の日本統計学会小川研究奨励賞は、以下の方に授与することが決まりました。

[1] 受賞者氏名：澤 正憲氏

略歴：2003年 広島大学学校教育学部卒業，2005年 広島大学大学院理学研究科修了（数学専攻），2007年 名古屋大学大学院情報科学研究科修了 博士（情報科学），2007年 日本学術振興会特別研究員（PD），2008年 高松工業高等専門学校講師，2009年 名古屋大学大学院情報科学研究科助教，2010年 米国テキサス大学ブラウンズビル校客員助教，2011年 米国オレゴン大学客員助教，2014年 名古屋大学大学院情報科学研究科招聘教員，2014年 神戸大学大学院システム情報学研究科准教授，現在に至る。

授賞理由：澤正憲氏は、組合せ論的立場から統計的実験計画の分野における最適デザインに関する研究を行ってきた。澤氏は、特に数値解析や組合せ論における Quadrature（求積法）及びユークリッドデザインの理論に深い造詣を有しており、これを最適デザインの理論を含む実験計画法の研究に新たに導入し、多くの重要な成果を得ている。澤氏の一連の研究は、Quadrature、ユークリッドデザイン、最適デザインを相互に関連付け、関連性の見えにくい研究領域の本格的な越境を促すものである。澤氏は実験計画法の数理的な理論に関する重要な業績を数多く得ており、研究手法の独創性と分野横断性は注目に値する。澤氏のこのような優れた研究業績は、統計学の発展に大きく寄与するものであることから、日本統計学会小川賞にふさわしいものである。

主要業績：

[1] Sawa, M., Hirao, M. (2016) Characterizing D-optimal rotatable designs with finite reflection groups. *Sankhya Series A (Indian J. Statistics)*,

Vol.79, 101-132

- [2] Yamamoto, H., Hirao, M., Sawa, M. (2019) A construction of the fourth order rotatable designs invariant under the hyperoctahedral group, *Journal of Statistical Planning and Inference*, Vol.200, 63-73
- [3] Hirao, M., Sawa, M. (2019) On almost tight Euclidean designs for rotationally symmetric integrals, *Japanese Journal of Statistics and Data Science*, Vol.2, 615- 639. (招待論文)
- [4] Sawa, M., Hirao, M., Kageyama, S. (2019) *Euclidean Design Theory*, JSS Research Series in Statistics, Springer.

[2] 受賞者氏名：中島 上智氏

略歴：2004年 東京大学経済学部卒業，2006年 東京大学大学院経済学研究科修士課程修了（経済学修士），同年 日本銀行入行，2012年 米国デューク大学統計学博士（Ph.D. in Statistics）取得，2016年 国際決済銀行シニアエコノミスト，2019年 日本銀行調査統計局経済調査課マクロモデルグループ長，現在に至る。

授賞理由：中島上智氏は、経済学の実証分析を中心として、トップジャーナルを含む国際学術雑誌に多くの優れた研究論文を発表している。これらの研究において、モデルの理論的側面だけでなく政策に役立つ統計モデルの開発や経済ファイナンスデータを用いた実証分析など、実社会に直結した研究テーマにも力を入れている。また、高次元の多変量時系列モデルに関する研究では、昨今注目されているビッグデータを効率的に活用するための方法として、実社会に役立つ結果を提示している。このほか、2018年9月開催の統計関連学会連合大会において行われた第2回赤池メモリアルレクチャーにおける米国デューク大学 Mike West

特別榮譽教授による基調講演において討論者を務め、「多変量時系列のベイズ予測」に関する発表を行うなど、活発に研究活動を行っている。このような中島氏の優れた業績は、統計学の発展に大きく寄与するものであることから、日本統計学会小川研究奨励賞にふさわしいものである。

#### 主要業績：

- [1] Nakajima, J. (2020) "Skew selection for factor stochastic volatility models," *Journal of Applied Statistics*, **47**, 582-601
- [2] Nakajima, J. (2020) "Discussion of 'Bayesian forecasting of multivariate time series: Scalability, structure, uncertainty, and decisions,'" *Annals of the Institute of Statistical Mathematics*, **72**, 33-36
- [3] McAlinn, K., K.A. Aastveit, Nakajima, J. and

West, M. (2020) "Multivariate Bayesian predictive synthesis in macroeconomic forecasting," *Journal of American Statistical Association*, in press

- [4] Nakajima, J. (2020) "The role of household debt heterogeneity on consumption: Evidence from Japanese household data," *Economic Analysis and Policy*, **65**, 186-197
- [5] Kaihatsu, S. and Nakajima, J. (2018) "Has trend inflation shifted?: An empirical analysis with equally-spaced regime-switching model," *Economic Analysis and Policy*, **59**, 69-83
- [6] Nakajima, J. (2017) "Bayesian analysis of multivariate stochastic volatility with skew distribution," *Econometric Reviews*, **36**, 546-562

## 7. 第2回細谷賞授賞について

東北大学大学院経済学研究科では、細谷雄三名譽教授の統計学界における教育・研究への貢献を記念して、広く人文・社会科学分野における若手研究者のデータ科学研究を奨励するため、2018年に細谷賞を創設しました。2020年3月31日を期日に第2回受賞候補者の公募を行い、学外者を含む選考委員会を設け、慎重な審査・選考を行いました。ここに選考結果を報告します。なお、本賞は東北大学須永特定基金より寄付を受け、日本統計学会の後援により実施しています。

#### 第2回受賞者

1. 石原卓弥 (日本学術振興会特別研究員)  
Ishihara, T. (2020) Identification and estimation of time-varying nonseparable panel data models without stayers. *Journal of Econometrics*, **215** (1), 184-208
2. 石原昌和 (New York University)  
Venkatraman, V., Dimoka, A., Pavlou, P.A., Vo, K., Hampton, W., Bollinger B., Hershfield, H.E. Ishihara, M. and Winer, R.S. (2015). Predicting advertising

#### 照井 伸彦 (東北大学大学院経済学研究科)

success beyond traditional measures: new insights from neurophysiological methods and market response modeling. *Journal of Marketing Research*, **52** (4), 2015, 436-452

#### 講評

石原卓弥氏および石原昌和氏による論文は、それぞれ計量経済学理論、マーケティングへの応用をテーマとして、すぐれた成果をあげている。

石原卓弥氏は、ノンセパラブルなパネルデータモデルの識別と推定の問題を分析している。通常の識別条件である stayer (2 時点間において同じ値をとる説明変数) の存在を仮定せずに新たな識別条件を導出し、新たな識別条件のもとでパラメトリックおよびノンパラメトリック推定量を有用な漸近理論とともに提案している。識別条件の導出、推定量の提案、漸近理論、小標本特性の評価のすべてにおいて手堅くまとめられ、受賞にふさわしいものである。

石原昌和氏は、マーケティングにおける神経生理学的なアプローチの有効性を実証している。現

実のマーケティングデータを活用して、神経生理学的的手法による measure が広告効果を説明する要因として、伝統的 measure よりも有効であることを示している。神経生理学的なアプローチを社会科学におけるデータ解析に切り開いた意義は先駆的である。広く社会科学における統計/データ科学研究の奨励を目的とする本賞にふさわしい成果である。

#### 細谷賞選考委員会

照井伸彦（委員長，東北大学）大屋幸輔（大阪大学）新谷元嗣（東京大学）松田安昌（東北大学）

Peter M. Robinson（London School of Economics and Political Science）山形孝志（University of York, 大阪大学）

#### 石原卓弥氏略歴

2015/03, 京都大学経済学部卒業, 2020/03, 博士

（経済学，東京大学大学院経済学研究科），  
2020/04, 日本学術振興会特別研究員

#### 石原昌和氏略歴

2000/12, B.S. in Economics-Mathematical Emphasis  
（University of Wisconsin-Madison, College of Letters & Science）, 2011/06, Ph.D. in Marketing（University of Toronto, Rotman School of Management）, 2018/01, Associate Professor of Marketing（New York University, Stern School of Business）

2020年11月に第2回授賞式および Hosoya Prize Lecture を開催する予定です。詳細は下記 webpage でご確認ください。

東北大学大学院経済学研究科サービス・データ科学研究センター

<http://www.econ.tohoku.ac.jp/econ/datascience/>

## 8. 2020年度統計関連学会連合大会のお知らせ（第三報）

運営委員長 藤野 友和（福岡女子大学）

実行委員長 山本 義郎（東海大学）

プログラム委員長 富田 誠（横浜市立大学）

今回で19回目になる2020年度統計関連学会連合大会について進捗状況をご報告いたします。今大会は応用統計学会，日本計算機統計学会，日本計量生物学会，日本行動計量学会，日本統計学会，日本分類学会の6学会主催により開催する運びとなりました。初日の9月8日（火）はチュートリアルセッションと市民講演会を，2日目以降（9月9日（水）～12日（土））は一般講演や企画セッションなどを，会場は富山国際会議場および富山県民会館で開催いたします。懇親会は，大会3日目（9月10日（木））の晩に，富山電気ビルディングで開催します。是非ご参加ください。

この第三報では，チュートリアルセッション，市民講演会，企画セッション，コンペティションセッションなどの概要を項目ごとにご紹介いたします。今後，連合大会のウェブページ

<http://www.jfssa.jp/taikai/2020/>

に関連情報や詳細情報を随時掲載していきますので，ご覧ください。

### 1. 新型コロナウイルス感染拡大に伴う大会開催の見通しについて

新型コロナウイルス感染拡大に伴う影響が各所に出ているところですが，大会組織委員会においては，現段階では富山現地での通常開催に向けての準備を進めていくということを確認いたしました。また，大会会場ならびに懇親会では密閉・密集・密接のいわゆる三密を避ける形を取る予定です。通常開催を行うか否かについては，現在のところ8月初旬までに決定し，アナウンスする予定としております。完全な形での通常開催が難しいという判断になった場合，大会の一部もしくは全部をオンラインで開催する方向で準備する予定です。状況の急激な変化が起こった場合，決定時期

が変更になる可能性もあることをご承知おきください。

このことに伴い、第二報でご案内しておりました「事前参加申込」の開始時期を7月1日から1カ月程度遅らせて、8月7日とすることとしました。

最新の情報については、連合大会ウェブページをご確認いただきますようお願いいたします。

## 2. 大会日程、開催場所、各種受付期間

開催日程 ・場所	9月8日(火):チュートリアルセッションと市民講演会 9月9日(水)~12日(土):本大会 (8日は富山国際会議場、9日以降は富山国際会議場および富山県民会館)
主 催	応用統計学会, 日本計算機統計学会, 日本計量生物学会, 日本行動計量学会, 日本統計学会, 日本分類学会
懇 親 会	9月10日(木) 18:30~20:30(予定) 富山電気ビルディング
講演申込	5月11日(月) 11:00 ~6月3日(水) 17:00
報告集原 稿提出	6月8日(月) 11:00 ~6月26日(金) 17:00
事前参加 申込	8月7日(金) 13:00 ~8月28日(金) 17:00

## 3. 講演の申込

講演には次の種類があります。

- ・一般講演
- ・企画セッション講演
- ・コンペティション講演

申込方法は、すべての講演に共通の事項と種類ごとに異なる事項があります。ご注意ください。

### (1) すべての講演に共通の事項

講演をご希望の方は、上記ウェブページからお申し込みください。これ以外の申込方法はありません。申込ページでは、「一般講演」、「企画セッション講演」、「コンペティション講演」のいずれかを選択してください。原則として、申込は講演者が行ってください。ただし、「企画セッション講演」に限り、オーガナイザーがすべての講演をまとめて申し込むことも可能です。

### (2) 「一般講演」に関わる事項

通常の講演は「一般講演」として講演者がお申し込みください。ウェブページ上の講演申込手順にしたがって申込をしてください。プログラム編成の際の参考にしますので、最大3個までのキーワードを、重視する順にご選択ください。また、講演者(連名講演者を含む)のうち、少なくとも1名は主催6学会のいずれかの会員であることが要件です。

### (3) 「企画セッション講演」に関わる事項

企画セッション講演者は、オーガナイザーから連絡を受けた整理番号に対応するセッションを申込ページの講演種別にて選択してください。例えば、整理番号が12であると連絡を受けた講演者は、講演種別欄では「企画セッション講演 12」を選択してください。なお、企画セッション講演者(連名講演者を含む)については、主催6学会いずれかの会員であることを要件としません。

オーガナイザーがセッション内の講演全件を申し込む場合は、上記(2)と同様にして、それぞれの講演の申込を1件ずつお願いいたします。

### (4) 「コンペティション講演」に関わる事項

コンペティション講演は、研究内容とプレゼンテーションの能力を競う企画です。参加資格は、次のいずれかの条件を満たす方です。

- (a) 2020年4月1日時点で30歳未満の若手研究者(博士後期課程院生を含む)
- (b) 講演時に学部学生や修士課程(または博士前期課程)院生(年齢は問いません)

連名講演の場合、コンペティション対象者は実際に口頭発表する方です。また、コンペティション対象者は、講演申込時に主催6学会のいずれかの会員でなければなりません。ただし、入会申請中の方も認めます。プログラム委員会から各学会事務局に会員照会し、会員(入会申請中)でないことが判明した場合は、コンペティションへのエントリーを取り消しますので、十分にご注意ください。

審査は、複数名の審査委員による5段階評価のもとづく投票で実施する予定です。選考はプログ

ラム委員会で行います。審査では、研究内容とともに、研究発表のプレゼンテーションについても評価します。発表者が十分に準備・工夫し、充実したプレゼンテーションであることを期待しています。原則として、最優秀報告者1名、優秀報告者数名程度を選考します。

コンペティションセッションは、9月9日（水）～11日（金）（予定）に開催し、9月11日（金）または9月12日（土）に富山国際会議場にて表彰式を行う予定です。なお、コンペティション応募総数は年々増加傾向にあり、プログラムを組むのが難しくなっています。したがって、今年度も申込順で受け付け、応募状況によってはコンペティション参加件数を制限することがあります。

(5) 講演言語の選択欄

講演申込のページの講演言語欄では、「英語または日本語（のどちらでもよい）」、「日本語」のいずれかを選択してください。

#### 4. 講演報告集用原稿の提出

##### 1. 「一般セッション講演」, 「コンペティション講演」に関わる事項

報告集用の原稿はA4サイズで1ページです。インターネット経由で電子ファイル（PDF形式）を提出していただきます。「2. 大会日程, 開催場所, 各種受付期間」を参照の上, 原稿提出期間を厳守してください。

##### 2. 「企画セッション講演」に関わる事項

原則として、講演者が提出してください。書式・提出期間等は、上記1. と同じです。オーガナイザーがまとめて提出する場合は、セッション内の各講演について、上記1. と同様にして1件ずつ原稿を提出してください（「3. 講演の申込(3) 「企画セッション講演」に関わる事項」も参照）。その場合、オーガナイザーは、期限内に原稿を提出できるようなスケジュールで講演者に原稿作成・提出を依頼してください。

##### 3. すべての講演に共通の事項

講演種別にかかわらず、ご希望の方は、報告集用原稿とは別に、ウェブページに掲載する詳細論

文を受け付けます（A4サイズ, 最大10ページまで, PDF形式, ファイルサイズは1MB以内, フォント埋め込み）。詳細論文ファイルを上記1. と同じタイミングで提出していただきます。報告集用原稿および詳細論文の執筆要領については、連合大会ウェブページ(<http://www.jfssa.jp/taikai/2020/>)をご覧ください。

#### 5. その他

講演報告集は大会当日にお渡しします。

##### 【注意】

報告集は、本大会ウェブページにて公開予定です。公開を希望しない場合には、報告集用原稿の提出時に、その旨をご指示ください。

#### 6. 企画セッションのご案内

学会や個人等から申請のあった22件の企画セッションが予定されています。整理番号, テーマ名, オーガナイザーの氏名・所属は以下の通りです。各テーマのねらいや講演者・講演タイトルなどについては、後日連合大会のウェブページに掲載される情報をご参照ください。

なお、企画セッションの運営はオーガナイザーに一任していますので、テーマについてのお問い合わせは、各オーガナイザーにお願いいたします。企画セッションの日程はプログラム作成時に決定いたします。

整理番号, テーマ名, オーガナイザー（敬称略）

(01) “Theory and Practice of Surveys” supported by JSPS KAKENHI for JJSD（西郷 浩（早稲田大学））

(02) 医療におけるデータ駆動型科学（ヘルステータサイエンス）の実践（手良向 聡（京都府立医科大学）, 山本景一（和歌山県立医科大学））

(03) 日本計算機統計学会 企画セッション「生命科学・材料科学におけるデータサイエンスの最前線」（川野秀一（電気通信大学）, 廣瀬 慧（九州大学））

(04) “Information Criteria in Data Science” supported by JSAS and JSPS KAKENHI for JJSD

- (Yasumasa Matsuda (Tohoku Univ.))
- (05) 確率過程の統計と YUIMA パッケージ (鎌谷研吾 (大阪大学))
- (06) 応用統計学会学会賞授賞式・受賞者講演 (姫野哲人 (滋賀大学), 青木 敏 (神戸大学))
- (07) スポーツデータサイエンス (酒折文武 (中央大学))
- (08) アクチュアリアル・サイエンスと統計科学 (清水泰隆 (早稲田大学))
- (09) 接合関数 (コピュラ) の理論と応用 (吉羽要直 (東京都立大学))
- (10) 統計数理研究所医療健康データ科学研究センター「医療統計学のフロンティア」(田栗正隆 (横浜市立大学), 船渡川伊久子 (統計数理研究所), 伊藤陽一 (北海道大学病院))
- (11) アジアの公的ミクロ統計の活用 (馬場康維 (統計数理研究所))
- (12) 地震ビッグデータ解析の最前線 (長尾大道 (東京大学), 加藤愛太郎 (東京大学), 矢野恵佑 (統計数理研究所))
- (13) 公的統計におけるデータ補正と利活用の新展開 (川崎 茂 (日本大学経済学部), 山下智志 (統計数理研究所), 伊藤伸介 (中央大学経済学部))
- (14) 初中等から大学・社会人に至る数理・データサイエンス・AI 教育の実践的課題と展望 (竹内光悦 (実践女子大学), 藤井良宜 (宮崎大学), 渡辺美智子 (慶応義塾大学))
- (15) 大規模データにおける匿名加工とプライバシー保護をめぐる (佐井至道 (岡山商科大学), 星野伸明 (金沢大学), 伊藤伸介 (中央大学))
- (16) 日本分類学会企画セッション (栗原考次 (岡山大学), 富田誠 (横浜市立大学))
- (17) 人文学・社会科学分野におけるデータインフラストラクチャー—データカタログの整備— (廣松 毅 (日本学術振興会), 前田幸男 (東京大学), 伊藤伸介 (中央大学))
- (18) 人文学・社会科学分野におけるデータインフラストラクチャー—データの保存と共有— (廣松 毅 (日本学術振興会), 前田幸男 (東京大学),

- 伊藤伸介 (中央大学))
- (19) 日本計量生物学会シンポジウム「評価項目の大小関係に着目して治療効果を評価する統計手法」(坂巻顕太郎 (横浜市立大学))
- (20) 日本計量生物学会奨励賞受賞者講演および会員総会 (安藤友紀 (医薬品医療機器総合機構), 五所正彦 (筑波大学), 田栗正隆 (横浜市立大学), 山本英晴 (中外製薬))
- (21) ソフトウェア・デモンストレーションセッション
- (22) 日本統計学会各賞授賞式, 日本統計学会各賞受賞者記念講演 (山下智志 (統計数理研究所))

## 7. プレナリーセッション, チュートリアルセッション, 市民講演会について

統計関連学会連合大会プレナリーセッション

統計関連学会連合大会は, 国際的な学術集會を志向し, 海外からの参加者のために英語セッションの増加などの方策を行っています. 本セッションは, 連合大会 JSSM (Japanese Joint Statistical Meeting) の国際化をさらに推進するため, 世界的に著名な研究者として赤池メモリアルレクチャー賞受賞者を招聘しての講演をプレナリーセッションとして企画するものです. ただし今年度に関しては, 新型コロナウイルス感染拡大の影響によりビデオ講演になる可能性もあり, 開催時間帯は現在のところ未定となっております.

日 時: 2019年9月9日(水) 午前・午後(未定)

場 所: 富山国際会議場

講演者: John Copas (Warwick 大学)

講演者の John Copas 教授は, 常に現場からの問題を意識しながら統計的推測の方法論の研究を推進し, 多くの業績を挙げられています. そのうち6編の論文は JRSS のディスカッション付き論文として掲載され, Royal Statistical Society から Guy Medal in Silver を受賞されています. 近年では, メタアナリシスの方法論の研究に注力され, Copas 選択モデルは, 公表バイアスに対する感度

解析のための標準モデルの1つとして、広く使われています。

### チュートリアルセッション

今回のチュートリアルセッションでは、共立出版より刊行が開始された「機械学習の数理100問シリーズ」の著者である鈴木讓氏にご講演いただくことになりました。機械学習の各分野について、RとPythonの2種類のバージョンを出版するという挑戦的な内容に注目が集まっています。奮ってご参加ください。参加費については、「7. 参加申込と大会参加費」をご覧ください。

日 時：2019年9月8日（火）13：00～16：00  
（休憩時間を含む）

場 所：富山国際会議場

テーマ：機械学習の数理100問—統計学の使い方より、本質を見抜く力—

オーガナイザー：藤野友和（福岡女子大学）

講演者：鈴木 讓（大阪大学）

概要：データサイエンスや機械学習の業界で、知識や経験というよりは、「ロジック」が本質的に重要であると考えている人は多い。情報の真偽を吟味する、人が見えない本質やチャンスを見る、自由な発想などがそこから生じるものである。そのような思いから、大学の過去数年の講義録と演習問題をベースに、機械学習を題材に、数学とプログラミングによって脳裏に「ロジック」を構築するような書籍（機械学習の数理100問シリーズ11冊、英語版は10冊）を執筆することになった。すでに2冊が出版され、SNSの評判や口コミで多くの方にその存在が知れ渡り、現在は大学や職場で輪講として多く読まれている。

講演の最初の30分と最後の15分は、機械学習の数理100問シリーズのねらいと全容について述べる。講演の大部分（約2時間）は、2020年8月に刊行されるシリーズ3、4冊目に相当する「スパース推定の機械学習への応用」のエッセンスを、数式をなるべく用いずに、例を中心に述べていく。線形回帰、一般化線形回帰、グループLasso、行

列分解、主成分分析、グラフィカルLassoについて、専門家からすれば当たり前の内容ではあるが、参加者の誰にとっても、新しさが含まれるものとした。

### 市民講演会

今回の市民講演会は現在、調整中ですが、場所と日時は以下の通り予定しております。奮ってご参加ください。なお、市民講演会の参加費は無料です。

日 時：2020年9月8日（火）16：30～18：00

場 所：富山国際会議場

### 8. 参加申込と大会参加費

当日受付の混雑を緩和するため、ウェブページからの事前申込にご協力ください。受付期間は、「2. 大会日程、開催場所、各種受付期間」を参照してください。事前申込の場合、参加費が大幅に割引になりますのでぜひご利用ください。

#### 大会参加費（報告集代を含む）

	事前申込	当日受付
会員（主催6学会の会員）	7,000円	10,000円
学生（会員・非会員を問わず）	3,000円	8,000円
学生以外の非会員	15,000円	20,000円

#### チュートリアルセッション参加費（資料代を含む）

	事前申込	当日受付
会員（主催6学会の会員）	3,000円	4,000円
学生（会員・非会員を問わず）	2,000円	3,000円
学生以外の非会員	6,000円	8,000円

#### 懇親会参加費

	事前申込	当日受付
一般（会員・非会員を問わず）	10,000円	12,000円
学生（会員・非会員を問わず）	5,000円	6,000円

#### 【注意】

- (1) 講演申込をされた方も参加申込の手続きが必要です。
- (2) これまでの大会と同様に、事前申込のキャンセルと変更は認められません。大会に参加されなかった場合、報告集などの資料は後日送

付いたします。主催6学会の会員以外の方が、企画セッションや特別セッションでオーガナイザーから依頼されて講演される場合、大会参加費は無料となります。

- (3) 市民講演会の参加費は無料です。
- (4) 懇親会は、収容人数に余裕がある場合に限り、オンサイト受付を行う予定です。オンサイト受付のポリシーに関しましては、第四報（8月発行予定）でご案内いたします。

## 9. 宿泊・アクセス案内

今大会では宿泊の斡旋はいたしません。各自で宿泊の予約をお済ませください。大会のメイン会場である富山国際会議場へは、JR「富山駅」から市内電車で約7分、バスで約8分、徒歩約15分

です。大会会場へのアクセスについてはウェブページ

<https://www.ticc.co.jp/access/>

もご覧ください。

## 10. 託児施設の利用案内

託児所を利用される場合、連合大会の予算内にてその費用を補助するよう準備しております。詳細は、ホームページでアナウンスいたします。

申込・問い合わせ先

2020年度統計関連学会連合大会実行委員会

E-mail : jikkou2020 (at) jfssa.jp

(at) を @ に置き換えてください

## 9. 日本統計学会春季集会での発表に関する会員への旅費の補助制度の廃止について

川崎 茂（日本統計学会会長）

山下 智志（日本統計学会理事長）

日本統計学会では、春季集会のポスターセッションを中心とした発表において、これまで会員の皆様に旅費の補助を行ってまいりました。その理由としては、旅費の補助によって、とくに年齢の若い会員の方々に春季集会で発表していただく機会を増やしたいと考えていたからです。しかしながら、会員の研究発表の件数が傾向的に増えてきたのに対して、旅費の補助の申請を行う会員の方は少なくなってきました。こうした状況を勘案し、2020年5月30日開催の社員総会で、旅費の補助制

度の今後のあり方について議論がなされました。また、総会の議論の結果を改めて7月11日開催の理事会で審議した結果、「春季集会の発表件数を確保する上で旅費の補助制度は十分にその役割を果たした」と判断し、日本統計学会春季集会での発表に関して会員の皆様へ旅費を補助する制度を廃止することを決議しました。会員の皆様にご報告をさせていただきます。

ご理解頂くとともに、今後とも統計学会の諸活動へのご支援を賜りますようお願いいたします。

## 10. 第3回「赤池メモリアルレクチャー賞」

### 受賞者および記念講演が決定

統計数理研究所と日本統計学会は2016年に「赤池メモリアルレクチャー賞」を共同で創設しました。故赤池弘次博士の功績を記念し若手人材の育

成を促進し、統計科学の発展に寄与するため、同研究分野において顕著な業績を挙げた研究者を対象として2年に1度選出、授賞するものです。

第3回受賞者は、ウォーリック大学の John Brian Copas 教授に決定しました。受賞記念講演は2020年度統計関連学会連合大会のプレナリセッションとして9月9日(水)16時~18時にオンライン講演として実施される予定です。詳しくは日本統計学会のホームページをご覧ください。

セッションとして9月9日(水)16時~18時にオンライン講演として実施される予定です。詳しくは日本統計学会のホームページをご覧ください。

## 11. 理事会・委員会報告 (2020年5月9日)

一般社団法人 日本統計学会 理事会議事録

日時：2020年5月9日(土曜日)午後0時00分~午後2時00分

場所：Zoom (ミーティング ID: 995 4799 4630)

理事の総数 13名 出席理事の数 13名

監事の総数 3名 出席監事の数 3名

出席者：

理事：川崎茂会長，山下智志理事長，伊藤伸介(庶務)，玉置健一郎(庶務)，吉田靖(会計)，青嶋誠(JJSD)，吉羽要直(会誌編集和文)，小池祐太(広報)，稲葉由之(大会・企画・行事)，汪金芳(国際)，松田安昌(国際)，前田忠彦(渉外)，瀬尾隆(渉外)

監事：赤平昌文，岩崎学，中西寛子

### 第1議案 2019年度事業報告について

山下理事長より，資料に基づき，2019年度事業について報告があり，審議の結果これを承認し，社員総会に諮ることとした。

### 第2議案 2019年度決算報告について

山下理事長より，資料に基づき，2019年度決算について報告があり，審議の結果これを承認し，社員総会に諮ることとした。

### 第3議案 監査報告について

赤平監事，岩崎監事，中西監事より，2019年度事業報告および決算の監査結果について報告があり，審議の結果これを承認し，社員総会に報告することとした。

### 第4議案 日本統計学会への寄付に伴う賞の新設について

川崎会長より，資料に基づき，「日本統計学会中村隆英賞」の新設について提案があり，審議の結果これを承認し，社員総会に諮ることとした。

### 第5議案 新学会賞規程の制定について

川崎会長より，資料に基づき，「日本統計学会中村隆英賞規程」の制定について提案があり，審議の結果これを承認し，社員総会に諮ることとした。

### 第6議案 日本統計学会委員会規程の変更について

山下理事長より，資料に基づき，日本統計学会委員

会規程の変更について提案があり，審議の結果これを承認し，社員総会に諮ることとした。

### 第7議案 常設委員会における委員長・委員の交代について

山下理事長より，資料に基づき，常設委員会の委員長および委員の交代について提案があり，審議の結果これを承認し，社員総会に報告することとした。

庶務委員会

玉置健一郎委員長より伊藤伸介委員長に交代(2020年5月30日付)

玉置健一郎委員より加藤昇吾委員に交代(2020年5月30日付)

国際関係委員会

汪金芳委員長より松田安昌委員長に交代(2020年5月30日付)

汪金芳委員より菅澤翔之助委員に交代(2020年5月30日付)

### 第8議案 臨時委員会における委員長・委員の交代について

山下理事長より，資料に基づき，臨時委員会の委員長および委員の交代について提案があり，審議の結果これを承認し，社員総会に報告することとした。

JSS-Springer 編集委員会

濱崎俊光委員，樋口知之委員，星野崇宏委員より大屋幸輔委員，椿広計委員，服部聡委員に交代(2020年4月1日付)

### 第9議案 会員の入退会

山下理事長より，回覧資料に基づき，入退会者について紹介され，審議の結果これを承認し，社員総会に提出することとした。

### 第10議案 社員総会招集の件

会長より，社員総会を以下の通り招集する旨が提案され，承認された。

1. 日時 2020年5月30日(土)13:30~15:00

2. 場所 統計数理研究所 D508

3. 会議の目的

(1) 賞の新設について

(2) 賞規程の制定について

### (3) 社員総会における通常の審議

以上をもって本理事会の議案を終了したので、議長は閉会を宣し、午後2時00分に散会した。

#### 一般社団法人 日本統計学会 委員会議事録

日時：2020年5月9日（土曜日）午後2時00分～午後2時43分

場所：Zoom（ミーティングID：995 4799 4630）

出席：理事13名、監事3名、計16名

川崎茂会長、山下智志理事長、伊藤伸介、玉置健一郎、吉田靖、青嶋誠、吉羽要直、小池祐太、稲葉由之、汪金芳、松田安昌、前田忠彦、瀬尾隆、赤平昌文（監事）、岩崎学（監事）、中西寛子（監事）

#### <報告事項>

##### 1. JJSD 支援委員会

青嶋委員長より、JJSDのこれまでの刊行状況と最新号の編集状況について報告があった。

##### 2. 和文誌編集委員会

吉羽委員長より和文誌第49巻第2号の刊行、および第50巻1号の編集状況について報告があった。

##### 3. 大会委員会

山下理事長と稲葉委員長から2020年度統計関連学会連合大会の進捗状況について報告があった。

##### 4. 企画・行事委員会

山下理事長と稲葉委員長から第14回日本統計学会の春季集会の中止について報告があった。

##### 5. 庶務委員会

玉置委員長より、以下の共催、後援、協賛の承諾についての報告があった。

(1) The 12th Conference of the IASC-ARS (IASC-ARS2022)

主催：IASC-ARS2022組織委員会、国際計算機統計学会・アジア地域部会 The Asian Regional Section of the International Association for Statistical Computing (IASC-ARS)

(2) 第3回統計データ分析コンペティション

共催：総務省統計局、独立行政法人統計センター、大

学共同利用機関法人情報・システム研究機構統計数理研究所、一般財団法人日本統計協会

##### 6. 広報委員会

小池委員長より日本統計学会会報の183号が2020年4月に刊行された旨の報告があった。また、日本統計学会HPサーバーの契約更新についても報告がなされた。

##### 7. 国際関係委員会

汪委員長より、2019年11月8日～9日にソウル市立大学で開催された国際セッションについて報告があった。また、2020年度以降に予定している国際セッションについても報告がなされた。

##### 8. 渉外委員会

前田委員長より、2020年度の科研費の来年度への繰り越し状況について報告があった。

##### 9. その他

質保証委員会の瀬尾委員長より、2020年6月1日に開催予定であった統計検定が中止されたことについて報告があった。

#### <審議事項>

##### 1. JJSD 支援委員会

特になし

##### 2. 和文誌編集委員会

特になし

##### 3. 大会委員会

特になし

##### 4. 企画・行事委員会

特になし

##### 5. 庶務委員会

特になし

##### 6. 広報委員会

特になし

##### 7. 国際関係委員会

特になし

##### 8. 渉外委員会

特になし

##### 9. その他

特になし

## 12. 社員総会報告

日時：2020年5月30日（土曜日）午後1時30分～午後3時47分

場所：統計数理研究所 D508

ハイブリッド出席型バーチャル社員総会として実施  
Zoom（ミーティングID：801 794 4544）

出席代議員：青嶋誠、伊藤聡、岩崎学、内田雅之、大

森裕浩, 狩野裕, 川崎茂, 川崎能典, 栗原考次, 清水誠, 瀬尾隆, 高部勲, 竹村彰通, 田畑耕治, 椿広計, 富澤貞男, 中野純司, 西山慶彦, 福井武弘, 増田弘毅, 松井知子, 山口美智子, 山下智志, 山本紘司  
(オブザーバー: 吉田靖, 伊藤伸介, 玉置健一郎, 加藤昇吾)

最初に, 議決権のある社員総数33名のうち, 出席社員数25名, 委任状の提出5名, 書面による議決権行使2名で, 本社員総会が適法に成立したことが確認された。川崎茂会長が議長となり, 定刻に開会を宣し, 直ちに議案の審議に入った。

#### 審議事項

##### 第1議案 2019年度事業報告及び決算に関する件

川崎会長より, 2019年度の事業報告と決算報告について報告がなされた。オブザーバーの吉田会計理事より, 2019年度決算報告について追加の説明がなされた。また, 赤平監事, 岩崎監事, 中西監事から特に問題はなかった旨の監査報告をいただいていることから, 審議の結果, これを承認した。

##### 第2議案 寄付に伴う賞の新設及び新学会賞規程の制定に関する件

川崎会長より, 寄付に伴う「日本統計学会中村隆英賞」の新設及び「日本統計学会中村隆英賞規程」を制定する旨の提案がなされ, 審議の結果, これを承認した。

##### 第3議案 日本統計学会委員会規程の変更に関する件

川崎会長より, 日本統計学会委員会規程における「表彰委員会」から「選考委員会」への変更について提案がなされ, 審議の結果, これを承認した。

##### 第4議案 理事の選任に関する件

理事(玉置健一郎, 吉田靖, 汪金芳)が本社員総会の終結と同時に任期満了し, 退任することになり, その改選の必要があるため, 川崎会長より, 以下のように後任の理事及び監事を選任することについて提案がなされ, 審議の結果, これを承認した。

理事 加藤昇吾, 吉田靖, 菅澤翔之助(2020年5月30日付)

#### 報告事項(理事会報告)

##### 1. 統計教員養成に関する文部科学大臣への要望

山下理事長より, 資料に基づき, 統計教員養成に関する文部科学大臣への要望について説明がなされた。

##### 2. 会員の入退会

山下理事長より, 回収資料に基づき, 会員の入退会について報告がなされた。

#### 報告事項(委員会報告)

##### 1. 常設委員会における委員長・委員の交代・再任について

山下理事長より, 資料に基づき, 常設委員会の委員長・委員の交代・再任について報告がなされた。

##### ・庶務委員会

玉置健一郎委員長より伊藤伸介委員長に交代(2020年5月30日付)

玉置健一郎委員より加藤昇吾委員に交代(2020年5月30日付)

吉田靖委員を再任(2020年5月30日付)

##### ・国際関係委員会

汪金芳委員長より松田安昌委員長に交代(2020年5月30日付)

汪金芳委員より菅澤翔之助委員に交代(2020年5月30日付)

##### 2. 臨時委員会における委員長・委員の交代・再任について

山下理事長より, 資料に基づき, 臨時委員会の委員長・委員の交代・再任について報告がなされた。

##### ・JSS-Springer編集委員会

濱崎俊光委員, 樋口知之委員, 星野崇宏委員より大屋幸輔委員, 椿広計委員, 服部聡委員に交代(2020年4月1日付)

##### 3. 2020年度統計関連学会連合大会について

山下理事長より, 2020年9月8日(火)~12日(土)に, 2020年度統計関連学会連合大会が富山国際会議場と富山県民会館において開催される旨の報告がなされた。企画セッションとして, 日本統計学会各賞授賞式・日本統計学会各賞受賞者記念講演が予定されている。

##### 4. 日本統計学会各賞受賞者の紹介

川崎会長より, 資料に基づき, 日本統計学会各賞の受賞者について以下のように報告があった。

日本統計学会賞: 岩崎 学氏

研究業績賞: 鎌谷 研吾氏

統計活動賞: 公的統計マイクロデータコンソーシアム, 統計データ利活用センター(総務省統計局・独法統計センター)

統計教育賞: 渡部 靖司氏, 青森県企画政策部統計分析課  
小川研究奨励賞: 澤 正憲氏, 中島 上智氏

※出版賞については該当なし

##### 5. 調達に関する細則 第4条(1)の改訂について

山下理事長より, 調達に関する細則 第4条

(1)において, 「一件の予想価額が20万円未満であるとき。」を「一件の予想価額が100万円未満であるとき。」に改訂したことについて報告がなされた。

##### 6. 科研費「国際情報発信(B)」について

川崎会長及び山下理事長より, 科研費「国際情報発信(B)」について報告がなされた。また, Springer社

## 2019 年度事業報告

(2019.4.1～2020.3.31)

### 学会の動向

日本統計学会は一般社団法人として9年目を迎え、2年周期の学会事業の5期目の初年を終えることになる。運営の経験を蓄積したことを生かして、川崎茂会長、山下智志理事長を含む13名の理事と3名の監事、および各種委員会における委員により、各種事業を着実に実施した。科学研究費「国際情報発信強化(B)」の採択により、Japanese Journal of Statistics and Data Science の発行と国際セッションの実施が強化され、国際的な活動にも大きく貢献した年度であった。

2019年12月20日現在の会員の数は1,496(名誉会員14、正会員1,414、準会員3、学生会員65)、これに加えて賛助会員17法人、団体会員8団体がある。

### I. 出版編集事業

#### 1. 和文誌の発行

和文誌3号[第48巻シリーズJ第2号(2019年3月)、第49巻シリーズJ第1号(2019年9月)、第49巻シリーズJ第2号(2020年3月)]を発行した。内訳は原著論文4編、受賞者特別寄稿論文5編、特集論文6編、会長就任講演、全411ページであった。

#### 2. Japanese Journal of Statistics and Data Science 編集の支援

Japanese Journal of Statistics and Data Science 第2巻 (Issue 1, Issue2: 原著論文26編、サーヴェイ論文1編; 全666ページ)の発行に協力した。また、科学研究費助成事業 研究成果公開促進費「国際情報発信強化(B)」の採択により資金面で貢献ができた(なお、本科研費は国際的活動資金としても利用されている)。

#### 3. 会報の発行

No.179(4月)、No.180(7月)、No.181(10月)、No.182(1月)を発行した。

#### 4. JSS Research Series in Statistics シリーズ(英訳)の出版

昨年度に引き続き、JSS Research Series in Statistics シリーズの出版を行った。2019年度は6冊(2020年1月現在)が出版され、全24冊が出版済みである。

### II. 内外学界交流事業

#### 1. 日本統計学会第87回大会の開催

2019年9月8日(日)～12日(木)、滋賀大学彦根キャンパスにて、2019年度統計関連学会連合大会の一環として開催した。ブレナリーセッションを行い、また、企画セッションとして、日本統計学会会長講演、日本統計学会各賞受賞者講演(各賞授賞式)を行った。

#### 2. 春季集会の開催

2020年3月14日(土)に第14回春季集会を横浜国立大学で開催予定であったが、新型コロナウイルス

感染症拡大を踏まえ、中止した。

### 3. 研究分科会の活動

以下の分科会が活動を行った。

「スポーツ統計分科会」(田村義隆主査:2009年6月発足、2021年5月終了予定)

「統計教育分科会」(藤井良宣主査:2010年12月発足、2023年3月終了予定)

「計量経済・計量ファイナンス分科会」(福重元嗣主査:2010年12月発足、2023年3月終了)

「女性統計家・データサイエンティスト育成分科会」(小野陽子主査:2019年4月発足、2023年3月終了予定)

### 4. 国際会議への協力

2019年11月8日～9日、ソウル市立大学にて、KSS-CSA-JSS Joint Sessions 4件を行った。

Data Science Statistics & Visualisation 2019 (DSSV2019) に対して ISI 東京大会記念基金から助成を行った。

前会長が、イタリア統計学会(Societa Italiana di Statistica、略して SIS)が開催した国際会議 SIS2019 "Smart Statistics for Smart Applications" (2019年6月18日～21日)に招聘され、SIS 会長、ロシア統計家協会会長とともにオンラインに参加した。

### III. 会員関係事業

#### 1. 賞の授与

学会活動の活性化促進のため、以下の賞を授与した。

第24回日本統計学会賞:小栗 厚之

第15回日本統計学会統計活動賞:国立大学法人 滋賀大学

第15回日本統計学会統計教育賞:一般社団法人日本品質管理学会TQP特別委員会、垣澤 友樹

第13回日本統計学会研究業績賞: P. J. Brockwell・松田 安昌 (共同受賞)

第12回日本統計学会出版賞:竹内 啓

第33回日本統計学会小川研究奨励賞:茂木 快治

第1回 ISI 東京大会記念奨励賞:今泉 允聡、萩原 哲平、小池 祐太、菅澤 翔之助、仲北 祥悟

#### 2. 各種委員会の活動

社員総会(2019年6月8日、2020年3月13日)を開催した。

理事会(2019年5月11日、6月8日、7月13日、11月6日、2020年2月1日)を開催した。

春季集会に関連する理事監事および委員で構成される春季集会準備会(12月14日)をはじめ開催した。

役員・代議員協議会(2019年9月8日)を開催した。



貸借対照表 (2020年3月31日現在) (単位:円)

科目	借方		貸方	
	期首	期末	期首	期末
I資産の部				
預積金	19,186,065	20,557,796	0	484,852
II負債の部				
未払金			0	484,852
流動資産合計	19,186,065	20,557,796	0	484,852
III正味財産の部				
学友活動積立金	3,503,247	3,503,544	0	0
60周年記念基金	1,383,938	1,178,261	0	0
75周年記念基金	1,542,625	1,530,088	79,431,995	80,251,665
ISI基金	39,420,035	39,944,482		
ICP基金	11,278,467	11,278,563	0	0
小川基金会	3,117,618	3,003,983		
特定資産合計	60,245,930	60,438,921	60,245,930	60,438,921
IV負債及び正味財産合計	60,245,930	60,438,921	79,431,995	80,251,665
資産合計	79,431,995	80,996,717	79,431,995	80,746,717

(注)ISI基金はISI東京大会記念事業基金、ICP基金はICPセミナーフォローアップ事業基金。

監査報告書

私たち監事は、一般社団法人日本統計学会の2019年4月1日から2020年3月31日までの理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果につき以下の通り報告いたします。

監査の方法及びその内容

各監事は、理事と意思疎通を図り、情報の収集および監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、主要な事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告にて検討いたしました。

さらに、当該事業年度に係る計算書類（正味財産増減計算書、貸借対照表）について検討いたしました。

監査の結果

- (1) 事業報告等の監査結果
- 事業報告及びその付属明細書は、法令及び定款に従い、学会の状況を正しく示しているものと認めます。
  - 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実はありません。
- (2) 計算書類の監査結果
- 計算書類は、学会の財産及び損益の状況を全て重要な点において適正に表示しているものと認めます。

2020年4月21日

一般社団法人日本統計学会

監事 岩崎 学  
監事 赤平 昌文  
監事 中野 寛子

特定資産の増減及びその残高 (2020年3月31日現在) (単位:円)

科目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	摘要
学友活動積立金	3,503,247	297	0	3,503,544	増加額は預金利息
60周年記念基金 (注1)	1,383,938	50	205,727	1,178,261	増加額は預金利息
75周年記念基金	1,542,625	12	12,549	1,530,088	増加額は預金利息
ISI基金 (注2)	39,420,035	1,764,126	1,239,679	39,944,482	増加額は主にDSSV2019返還金
ICP基金 (注3)	11,278,467	96	0	11,278,563	増加額は預金利息
小川基金会 (注4)	3,117,618	25	113,660	3,003,983	増加額は預金利息
合計	60,245,930	1,764,806	1,571,615	60,438,921	

(注1)60周年記念基金の資金使途は学会賞(臨時計、大会参加費)等

(注2)ISI基金の資金使途は事務局業務委託費、ISI奨励賞副賞等

(注3)ICP基金はICPセミナーフォローアップ事業基金

(注4)小川基金会の資金使途は小川賞賞金等

附属明細書

貸借対照表及び正味財産増減計算書の附属明細書は財務諸表の注記に記載している。

との JJSD 契約の変更についても報告があった。

## 7. その他

特になし

### 報告事項（その他）

#### 1. 特別委員会からの報告

学会活動特別委員会の栗原委員長より、日本統計学会の活動賞を2つの団体に与えている旨の報告がなさ

れた。また、学会組織特別委員会の川崎能典委員長より、準会員問題を学会組織特別委員会で検討する旨の報告がなされた。

#### 2. 次回日程等

今回の役員代議員協議会が2020年9月8日（火）に開催されることが案内された。

## 13. 博士論文・修士論文の紹介

最近の博士論文・修士論文を原稿到着順に紹介いたします。(1) 氏名 (2) 学位の名称 (3) 取得大学 (4) 論文題名 (5) 主査または指導教員 (6) 取得年月の順に記載いたします。

### 博士論文

● (1) 棚瀬貴紀 (2) 博士 (工学) (3) 東京理科大学 (4) Statistical inferences on summary measures of interval censored data in cancer clinical trials (5) 寒水孝司 (6) 2020年3月

● (1) 野村尚吾 (2) 博士 (工学) (3) 東京理科大学 (4) Evaluation of overall survival in cancer phase 3 clinical trials (5) 寒水孝司 (6) 2020年3月

### 修士論文

● (1) 芦口史弘也 (2) 修士 (工学) (3) 東京理科大学 (4) 病気の診断のためのバイオマーカーの有用性を評価する指標の特徴 (5) 寒水孝司 (6) 2020年3月

● (1) 磯ヶ谷賢斗 (2) 修士 (工学) (3) 東京理科大学 (4) 評価項目が2値変数の場合の3群比較臨床試験における2段階試験デザインの構築 (5) 寒水孝司 (6) 2020年3月

● (1) 今泉敦 (2) 修士 (工学) (3) 東京理科大学 (4) 生存時間解析における競合リスクと非比例ハザード性を考慮した標本サイズ設計法 (5) 寒水孝司 (6) 2020年3月

● (1) 金沢航佑 (2) 修士 (工学) (3) 東京理科

大学 (4) 平均因果効果の層化二重頑健推定法における層化方法 (5) 寒水孝司 (6) 2020年3月

● (1) 佐々木豊空 (2) 修士 (工学) (3) 東京理科大学 (4) 競合リスクと部分分布非比例ハザード性のもとでの事象時間データの2群間比較法 (5) 寒水孝司 (6) 2020年3月

● (1) 河津優太 (2) 修士 (工学) (3) 東京理科大学 (4) がん第1相臨床試験における最大耐量の選択割合に基づく標本サイズ設計法 (5) 寒水孝司 (6) 2020年3月

● (1) 田中優司 (2) 修士 (工学) (3) 東京理科大学 (4) 2型糖尿病患者の開眼片足立ち時間と予後の関連 (5) 寒水孝司 (6) 2020年3月

● (1) 平井俊 (2) 修士 (工学) (3) 東京理科大学 (4) バスケット試験における疾患間の治療効果の異質性の判別と治療効果の推測 (5) 寒水孝司 (6) 2020年3月

● (1) 本江渡 (2) 修士 (工学) (3) 東京理科大学 (4) Adaptive Lasso と二重頑健推定法を用いた平均処置効果の推定 (5) 寒水孝司 (6) 2020年3月

● (1) 宮内佑 (2) 修士 (工学) (3) 東京理科大学 (4) Sequential parallel comparison design における部分集団の治療効果の偏りを補正した検定法 (5) 寒水孝司 (6) 2020年3月

● (1) 大川口信一 (2) 修士 (学術) (3) 放送大学大学院文化科学研究科 (4) 都道府県内における広域圏別景気指数の作成～宮城県を事例として～ (5) 松原隆一郎 (6) 2020年3月

## 14. 新刊紹介

会員からの投稿による新刊図書の紹介記事を掲載します。

●志賀保夫, 姫野尚子『使える51の統計手法』株式会社オーム社, 2019年9月, 2,500円(税別)

内容紹介: 業務や卒業研究・論文等で良く使われる51個の統計手法をピックアップ。イラストと例題, 図表を用いて解説しており, 統計学の知識はあるが実践となると不安, 初心者なので一から勉強したいという方にもお薦めの本です。

●村上征勝(監修)金明哲・小木曾智信・中園聡・矢野柱司・赤間亮・阪田真己子・宝珍輝尚・芳沢光雄・渡辺美智子・足立浩平(編)『文化情報学事典』勉誠出版, 2019年12月, 850頁, 18000円

●村上征勝(著)『この本を書いたのは誰だ?—統計で探る“文章の指紋”』勉誠出版, 2020年3

月, 202頁, 1800円

内容紹介:

- ・かい人21面相は二人いた
- ・ノーベル文学賞の盗作疑惑
- ・愛国者の名を騙る者
- ・神の言葉を伝える
- ・“文章の指紋”は作り直せるのか

●汪金芳・小野陽子・小泉和之・田栗正隆・土屋隆裕・藤田慎也 著『弱点克服 大学生の統計学』東京図書株式会社, 2800円+税, 2020年6月

内容紹介: 厳選100題の統計学問題集。各テーマにつき, 問題・解答・解説を見開き2頁に。統計学の考え方と詳しい解答を一目で見ることが出来る。大学のデータサイエンス学部現役教授陣が執筆。大学の定期試験対策・院試対策に。

## 15. JSS Research Series in Statistics からの新刊情報

日本統計学会編の書籍シリーズ JSS Research Series in Statistics からの新刊情報を掲載します。

●津熊久幸, 久保川達也『Shrinkage Estimation for Mean and Covariance Matrices』Springer, 2020年4月, 冊子体: 49.99ユーロ

内容紹介: 行列正規分布モデルの平均行列および共分散行列の縮小推定法について, 近年注目されている小標本高次元の枠組みと, 古典的な大標本低次元の枠組みとを統一的に扱う技法を解説し, 最新の研究成果を広く紹介する。

●藤越康祝, Vladimir V. Ulyanov『Non-Asymptotic Analysis of Approximations for Multivariate Statistics』Springer, 2020年6月, 冊子体: 49.99ユーロ

内容紹介: 本書では, 種々の多変量統計量の漸近近似に関して誤差限界を与えている。ここでの誤差限界は, 標本数や次元が無限のときのオーダー評価ではなく, これらを固定したもとの非漸近的な限界として与えられている。

## 16. 受賞紹介

会員からの投稿による各種受賞の紹介記事を掲載します。

●令和2年度科学技術分野の文部科学大臣表彰科

学技術賞(研究部門)

受賞者: 青嶋 誠(筑波大学数理解析学系・教授)

業績名: 高次元統計解析による高次元現象の解明

## 17. 学会事務局から

### 学会費払込のお願い

2020年度会費の請求書が会員のお手元に届いていることと思います。会費の納入率が下がると学会会計に大きく影響いたします。速やかな納入にご協力をお願い申し上げます。便利な会費自動払込制度もご用意しています。次の要領を参照の上、こちらもご活用下さい。また、クレジットカードでの学会費払込も受け付けております。お申込みは学会ホームページよりお願いいたします。

(<https://www.jss.gr.jp/fcc/>).

### 学会費自動払込の問合せ先

学会費自動払込問合せの旨とともに、氏名と住所を以下にお伝えください。手続きに必要な書類が送付されます。

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6

能楽書林ビル5F

公益財団法人統計情報研究開発センター内

日本統計学会担当

Tel & Fax : 03-3234-7738

E-mail : [shom@jss.gr.jp](mailto:shom@jss.gr.jp)

### 入会承認

上本拓弥, 大澤秀麿, 小野智憲, 片山浩子, 川上諒, 河野貴大, 木原泰斗, 郷田昌稔, 河野遙希, 後藤佑一, 小西純, 小林誠, 小松慧, 酒井悠斗, 作原友樹, 佐々木拓真, 佐藤寛司, 重本秀人, 清水康希, セツギョクケツ, 武石将大, 竹内維斗文, 武埜健, 千野雅人, 茅根脩司, 千葉航平, 陳いつ,

辻和真, 土屋太郎, 渡名喜庸藏, 中野綾子, 中村英昭, 奈良武史, 根岸和弘, 藤井正敏, 三宅和公, 村山一明, 山口光 (敬称略)

### 退会承認

市川雅教, 猪原正守, 宇野大我, 近江崇宏, 神田範明, 小西啓介, 佐藤洋子, 史磊, 鈴木篤, 高橋拓也, 滝田公一, 武田雄二, 田中浩光, 田中陽平, 富田真理子, 直井雅之, 中村駿佑, 西村善博, 野口和也, 野中美佑, 福田昌史, 逸見功, 松島佑樹, 松本晋一郎, 向出智美, 目黒肇, 柳澤幸雄, 横山貴広, 吉野諒三, 丸善雄松堂(株) (敬称略)

### 長期連絡不能により退会したとみなされた会員

飯田博, 大山智基, 唐木田亮, 小山貴之, 里泰雄, 草田義昭, 高木真吾, 滝勇太, 玉江大将, 鳥越規央, 永田大貴, 西塚真太郎, パトリックホイ, 松尾恒, 松田裕也, 宮本崇, 柳貴久男, 山田英夏, 米島慎二 (敬称略)

### 現在の会員数 (2020年7月11日)

名誉会員	16名
正会員	1,382名
準会員	3名
学生会員	50名
総計	1,451名
賛助会員	16法人
団体会員	8団体

## 18. 投稿のお願い

統計学の発展に資するもの、会員に有益であると考えられるものなどについて原稿をお送りくだ

さい。以下のような情報も歓迎いたします。

●来日統計学者の紹介

訪問者の略歴，滞在期間，滞在先，世話人などをお知らせください。

●博士論文・修士論文の紹介

(1) 氏名 (2) 学位の名称 (3) 取得大学 (4) 論文題名 (5) 主査または指導教員 (6) 取得年月 をお知らせください。

●求人案内（教員公募など）

●研究集会案内

●新刊紹介

著者名，書名，出版社，税込価格，出版年月をお知らせください。紹介文を付ける場合は100字程度までとし，主観的な表現は避けてください。

●会員活動紹介（叙勲・受章，各種受賞等）

できるだけ e-mail による投稿，もしくは，文書ファイル（テキスト形式）の送付をお願い致します。

原稿送付先：

〒153-8914 東京都目黒区駒場3-8-1

東京大学大学院数理科学研究科

小池 祐太 宛

E-mail：koho@jss.gr.jp

（統計学会広報連絡用 e-mail アドレス）

- 統計学会ホームページ URL：  
<https://www.jss.gr.jp/>
- 統計関連学会ホームページ URL：  
<http://www.jfssa.jp/>
- 統計検定ホームページ URL：  
<http://www.toukei-kentei.jp/>
- 住所変更連絡用 e-mail アドレス：  
[meibo@jss.gr.jp](mailto:meibo@jss.gr.jp)
- 広報連絡用 e-mail アドレス：  
[koho@jss.gr.jp](mailto:koho@jss.gr.jp)
- その他連絡用 e-mail アドレス：  
[shom@jss.gr.jp](mailto:shom@jss.gr.jp)

